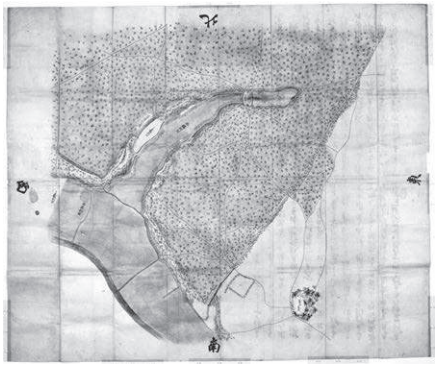
イベント event

文化財展 古地図から見た碧南の変遷

問 文化財課 ☎48-6602

碧南市は昭和23年大浜町・新川町・棚尾町・旭村の3町1村が合併し、県内では10番目、碧海地域では最初に市制を施行した市です。さらに、昭和30年には明治村大字西端を合併し、港湾埋立地域を除く現在の碧南市の形ができあがりました。
本展では、碧南市を構成する5地区の古地図をそれぞれ、成立背景とともに示し、現在の姿と比較できるようにしました。現在との共通点・相違点をぜひ確認してください。
今回は、近年新たに市指定文化財に指定された「大浜村絵図」(パネル展示)、「西端村・高取村溜池争論裁許絵図」を中心に、碧南に関する地図を紹介します。



△市指定文化財：西端村・高取村溜池争論裁許絵図（市蔵）

▼日時
2月3日(土)～3月7日(木) 9時～21時

▼場所
文化会館

▼料金
無料

▼ギャラリートーク（展示説明会）
本展示では公開していない地図も見られますので、ぜひ参加してください。
時 2月3日(土)、3月2日(土) 14時～14時40分頃 所 文化会館 ¥ 無料 申 不要

碧南の歴史へのいざない

問 文化財課内市史資料調査室 ☎41-4566

No.107 水辺の記憶（6）～衣ヶ浦の海水浴場～

現在、産業道路が通り、臨海工業地帯が広がる地域は、昭和三〇年代（一九六〇年前後）まで遠浅の海でした。砂浜が広がり、北から南まで海水浴場が作られました。

海水浴客でにぎわう
玉津浦海水浴場

新明石海水浴場は山神社の西に、新須磨海水浴場は名鉄碧南中央駅の西に、新浜寺海水浴場は臨海公園辺りに、玉津浦海水浴場は大浜熊野大神社の西に広がっていました。いずれも海水浴場としては近代に開かれた場所です。

特に大正三年（一九一四）に三河鉄道が大浜港（現名鉄碧南駅）まで開通すると、遠来の客も加わってにぎわいました。新須磨駅（現名鉄碧南中央駅、踏切より南にあった）は当初、海水浴期間だけの営業でした。

日赤大浜児童保養所が大正一〇年（一九二一）から昭和三九年（一九六四）まで開設されました。県内の虚弱体質の児童が玉津浦海水浴場で楽しみながら体力を向上させました。

伊勢湾台風により大きな被害を受けましたが、翌年には再整備され、仮設舞台や貸しボート場もにぎわいました。

新須磨海水浴場で
ボート遊び

遠浅の海は潮干狩りにもよく、冬は粗朶（そだ）を立てて海苔（のり）の養殖をしました。豊かな海の恩恵を受けていたのです。

海苔粗朶の向こうに
漁船が航行する